

JAMトピックス

藤川しんいち 総決起集会

何があんでも国政へ バッジをつなぐぞ！

2016年6月01日
編集：JAM本部

何があんでも藤川しんいちを国会へ送るという決意を固めた 2016 JAM政策実現藤川しんいち総決起集会が5月14日、東京・渋谷で開かれた。参加者は、全国のJAMの仲間や青年協・With、シニアクラブ、議員団会議など約800人。



<残された期間、団結して走り抜こう>

宮本礼一 JAM会長は、JAMは汗して働く者の生活を守り、中小企業が事業を育ていけるよう結成された。その思いを津田やたろう参議院議員とともに歩み形にしてきた。この流れを断ち切るわけにはいかない。何があんでもこの参議院選挙で藤川しんいち予定候補者に津田議員のバッジをつないでいかなければならない。残された期間、気を引き締め、戦いを進めようと檄を飛ばした。

来賓のJR連合・河村滋喜事務局長と、ものづくり国会議員懇談会代表幹事の細野豪志民進党衆議院議員が連帯と激励のあいさつ。「政策課題を解決するには、国会の場で要求や声を代弁してくれる議員を作ることが一番の近道。JR連合は最大限の支援をする」。「安倍政権の金をばら撒き、金融緩和をし、無理やり円安にする政策は限界。働く仲間の給料が上がってはじめて経済がよくなる」「この国の10年、20年、50年先の経済を支えるのは皆さんが培ってきた技術・技能だ。これが継承されてこそこの国の経済が持つ。その声を安倍政権や自民党は代弁していない。その声を代弁するのは藤川しんいちだ」「われわれはもう一度政権

をめざす。そのためにもこの参議院選挙は負けるわけにはいかない。あと二ヶ月。皆さんの力を結集して藤川しんいち氏を参議院に送るために支援を」と激励した。

組織内国会議員として激励あいさつに立った津田やたろう参議院議員は、JAMは中堅中小の労働者、ものづくり・サプライヤの代弁者だ。公正取引で適正価格を守れないとその産業は消えていくと指摘。また、リーマンショックや東日本大震災、熊本大分地震などの厳しいときにすぐにそれを主張できるJAMの国会議員がいないと、「末端で困っている人たちの職場や生活が破壊されていく」と危機感を表明し、「その役割とバッジを藤川しんいち予定候補者つないで行くために全力を」と訴えた。



<全国のJAMの仲間の声を国政に届けます>

藤川しんいち応援団からは、青年協議会の必勝パフォーマンスに続き、JAMシニアクラブ大山勝也会長、議員団会議大毛十一郎代表幹事、地方JAM代表としてJAM北関東の谷内聡委員長の激励と決意表明がされ、秋元みゆき with 議長の決意表明と働く女性の思いと激励の言葉を記した色紙と千羽鶴の贈呈などが行われた。

藤川しんいち候補予定者からはこの1年、全国でJAMの仲間の厳しい状況をつぶさに聞くことができた。この声を国政に届けるために残りの期間全力で走り切るとの決意が示された。